

poco a poco アートのたまご

え ほん

か い が

かんしょうかい

絵本と絵画の鑑賞会

+ワークショップ vol. 05

あぶらえのぐ
油絵具でうつした絵？

ゆさいてんしゃ どうめいすいさい
油彩転写と透明水彩、

いつもとはちょっとちがう絵具で作品づくりをします。

パウル・クレーという画家が考えた方法で描いてみるとー？

できあがった作品はギャラリーで展示もあり！です。

※参加無料・ワークショップは保護者の方も参加できます。

とき：2021年1月23日（土） 午前10:00～12:30 / 午後14:00～16:30

※午前・午後とも同じ内容です。

ところ：弘前文化センター「工作実習室」

対象：幼稚園：保育園生～小学生と保護者（各回16名）

お申し込み：2021年1月9日（土） 12:00～（先着順）

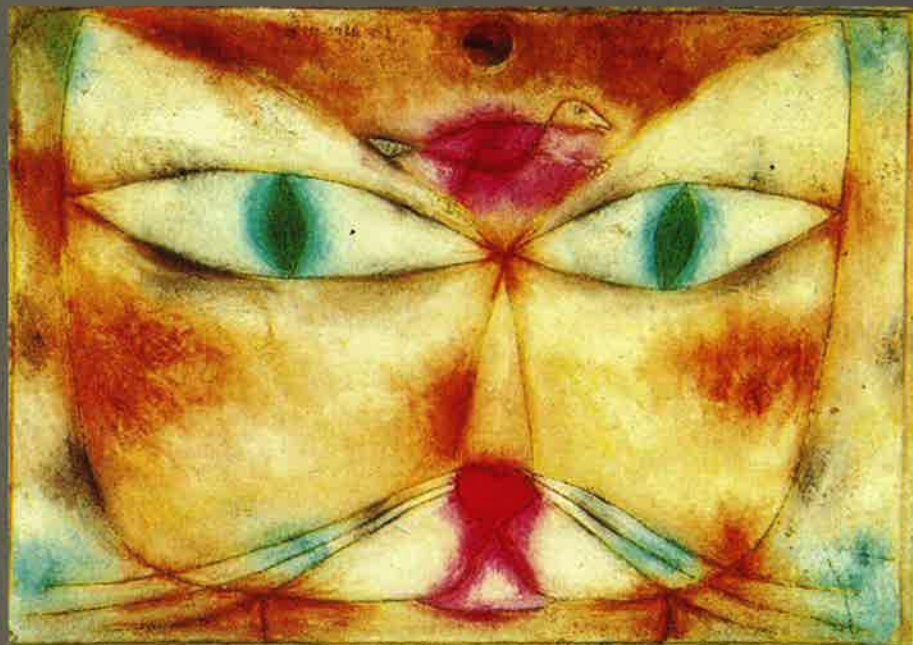
「アートワールドひろさき」ウェブサイトの専用フォームから。

右のQRコードでアクセスできます。

https://home.hirosaki-u.ac.jp/artworld/contact/artegg_workshop_210123accept/

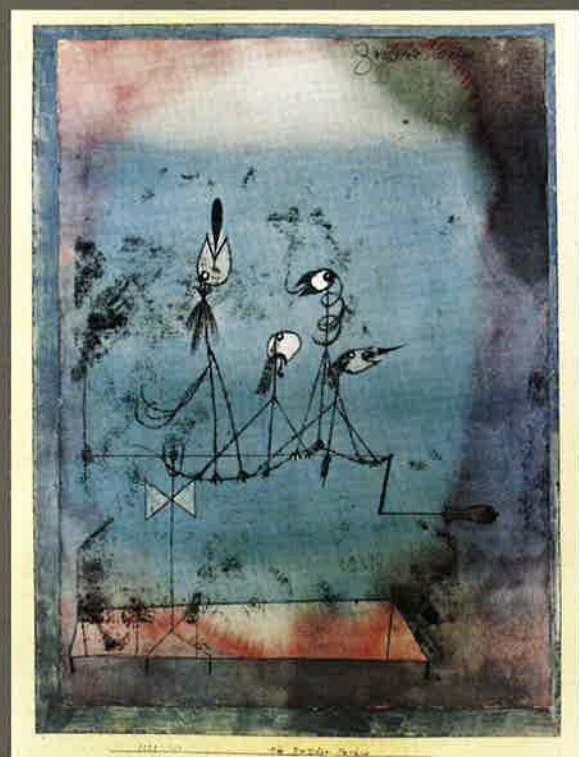
お問い合わせ：✉ artworld@hirosaki-u.ac.jp ☎ 0172-39-3383（出〈いで〉）





じかん おと
時間や音を
え
絵にするとしたら？
くうそう せかい
空想の世界には
いろ かたち
どんな色や形がある？

ふだんとはちょっと違う
絵具の質感を楽しみながら
目には見えないはずのものを
絵にしてみるワークショップ。



上：パウル・クレー《猫と鳥》1928年，38.1×53.2cm，油彩・キャンバス，ニューヨーク近代美術館。

下左：パウル・クレー《さえぎり機械》1922年，63.8×48.1cm，水彩・油彩転写，ニューヨーク近代美術館。

下右：パウル・クレー《魚の魔法》1925年，77.2×98.5cm，油彩・水彩・キャンバス，フィラデルフィア美術館。

パウル・クレー（Paul Klee: 1879-1940）は、1879年にスイスの都市ベルンの近郊に生まれました。3歳になる頃から祖母に絵の手ほどきを受けて育ち、また6歳になると、小学校入学と同時にヴァイオリンを習いはじめました。絵画もさることながら、ヴァイオリンの腕前も確かなもので、10歳にはベルン市管弦楽団の非常勤団員になっています。

20歳でドイツのミュンヘン美術学校に入学したものの、そこでの教育にはなじまず、入学前に通っていた画塾の仲間とともに独自に作品制作に励み、30歳で最初の個展を開きました。翌1911年には、「青騎士」の名で知られる画家仲間（カンディンスキー、マルクなど）と知り合い、20世紀前半の新たなヨーロッパ美術を牽引する画家の一人として知られるようになっていきます。また、1914年に友人で画家のマッケとともに旅したチュニジアでは色彩に開眼し、クレーの作品は多様で豊かな色彩の響きを呈するようになりました。

今回のワークショップで試みる「油彩転写」は、クレーが総合工芸学校バウハウスの教師に着任した1920年頃から始められた独自の描法です。彼は、紙に黒い油絵具を塗って乾燥させると、あたかもカーボン紙のように、転写する紙の上にそれを裏返して重ね、上から人物や室内空間などの線描を行いました。すると、転写された紙の上には、独特の滲みや擦れをともしなう繊細な線画が現れます。クレーは水彩絵具で着色した紙にこの「油彩転写」を行ったり、あるいは「油彩転写」の上に水彩絵具で着色したりしながら、実にさまざまなイメージを生み出していました。それらは、時に、時間の移ろいやリズムカルな音楽を思わせる線と色彩の反復と重なりを、また時には、サーカスや劇の一コマ、あるいは空を飛ぶ鳥や水中をたゆたう魚たちの姿を示しています。

—今回のワークショップでは、そんなクレーの絵画世界を味わい、「油彩転写」と「透明水彩絵具による着色」をお楽しみください。